

20020

CDAにおける撮影プロトコル並びにCO<sub>2</sub>注入条件の検討

【目的】ヨード系造影剤に対するアレルギー症例や腎機能低下症例における炭酸ガス造影法（CDA）の有用性はいくつか報告されている。当院でも下肢PPIに対するCDAを経験しているが、CO<sub>2</sub>の注入条件に対するガイドラインがなく、文献等を参考にしている。またコントラストの低いCDAにおいて、ヨード造影と遜色ない造影効果を得ることが重要であるが、撮影プロトコルはスタンダード化していない。そこで今回CO<sub>2</sub>の注入条件、並びに撮影プロトコルについて検討を行なったので報告する。

【方法】自作ファントムにより血管撮影装置（東芝製）を用いてDSA撮影を行なった。

- (1) 撮影プロトコルは一定とし、CO<sub>2</sub>の注入条件を変化
- (2) CO<sub>2</sub>の注入条件は一定とし、撮影プロトコルを変化

各画像において視覚評価等の検討を行い、臨床用のプロトコルを作成した。また、それを用いて撮影した臨床画像について検討を行なった。

【結果】CO<sub>2</sub>の注入条件については一定の注入量を超えると造影効果に大きな変化はなかった。撮影プロトコルは画像加算を多くするとコントラストは向上するが、時間分解能が悪いので臨床画像ではミスレジストレーションにより大きく画質が低下する。CDAはヨード造影剤と比べるとコントラストが低くまたステント内に造影ムラが起り易いのでステント拡張状態で評価困難な症例があった。

【結論】検査・治療において十分な情報量が得られるプロトコルを作成することができた。しかし、病変の狭窄率や部位に応じたCO<sub>2</sub>の注入条件及び撮影プロトコルの最適化を図る等、検討の余地がある。

| 評価1            | 評価2   | 評価3 | 採否       |
|----------------|-------|-----|----------|
| 発表日時 月 日 (第 日) | セッション | 会場  | 時 分～ 時 分 |

受付番号

演題番号